



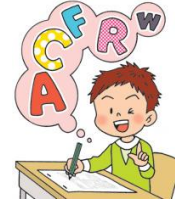
# かさはら

学校だより 特別号  
平成29年12月26日  
多治見市立笠原小学校

<学校の教育目標> やさしく かしこく たくましく

## 外国語（英語）についてのアンケートより

先日は、ご多用の中、見出しのアンケートにご協力いただき、ありがとうございました。保護者の皆さんにお答えいただいたアンケート結果とご意見を紹介させていただきます。



1	授業を話題にするか	話題になる	17.9%
		どちらかという話題になる	45.5%
		どちらかという話題にならない	29.2%
		話題にならない	7.4%
2	小学生が英語を勉強する必要があるか	そう思う	61.3%
		どちらかというと思う	37.1%
		どちらかというと思わない	0.9%
		そう思わない	0.7%
3	外国語活動の時間は増やすべきか	そう思う	25.7%
		どちらかというと思う	47.6%
		どちらかというと思わない	24.1%
		そう思わない	2.6%
4	外国語活動は日本語コミュニケーション能力の向上に影響を与えるか	そう思う	44.2%
		どちらかというと思う	51.4%
		どちらかというと思わない	1.4%
		そう思わない	3.0%
5	英語を使えるようになってほしいか	そう思う	54.0%
		どちらかというと思う	41.0%
		どちらかというと思わない	4.8%
		そう思わない	0.2%
6	海外留学や海外での仕事をしてほしいか	そう思う	17.4%
		どちらかというと思う	43.8%
		どちらかというと思わない	33.4%
		そう思わない	5.4%
7	いろいろな国の人々と交流してほしいか	そう思う	32.2%
		どちらかというと思う	53.9%
		どちらかというと思わない	13.2%
		そう思わない	0.7%
8	英語に関する資格や検定を受けてほしいか	そう思う	35.5%
		どちらかというと思う	48.1%
		どちらかというと思わない	13.5%
		そう思わない	2.9%
9	英語教育に賛成・反対 ※主なご意見は右に掲載	賛成	98.7%
		反対	1.3%

### 【質問 NO. 9】

笠原小学校は特別な教育課程（教育の内容や方法）で他の小学校に比べ多くの英語の学習を実施していることについての主なご意見

### ★「賛成」について

- ・早期に日本語と同じように自然に英語に親しめるのでよい。
- ・小さな頃から学んでいるおかげで自然に英語が口をつけて出てくる、発音がよい等驚くことがある。これからの成長が楽しみである。
- ・小さい頃から楽しく学習しているので、英語が好きになると思う。
- ・コミュニケーションの幅が広がる。英語を話せた方が視野も広がると思う。
- ・将来必ず必要になる。必要なことはどんなにやってもよい。
- ・英語は家ではなかなかやらせられない学習だと思ふ。
- ・英語を小学校で学習する必要はないと思ふが、やっておいて損をすることはない。
- ・笠原小の子どもたちの英語力はすごいと実感できる。
- ・中学校へ行った時、スムーズに本格的な英語の授業に取りかかれると思う。
- ・自分は英語が苦手だが、何にしても国際化が進んできて本当に困っている。子どもにはそんな苦労をさせたくない。
- ・笠原小では本当に英語が身近にあり、子どもも英語を楽しんでいる。「英語＝苦手・難しい」という世代と違ってうらやましく思う。
- ・6年生になって特に、家に帰ってからも英語の会話を口ずさむことが増えた。私に英語で質問することも増え、笠原小での英語学習のおかげだと思ふ。
- ・長い間文科省から英語のモデル校のように指定を受け、誇りに思う。小さい頃から学んだ英語のおかげで将来の夢の幅が広がり、またその夢に向かってがんばっていく姿は、素敵だと思ふ。
- ・来年度からは文科省の英語教育の指定校ではなくなることを知り、英語学習活動への取組方が従来とは異なってくるのではないかと心配している。そんなことがないように願っている。

### ★「反対」について

- ・英語を学ぶこと自体はよいことだと思うが、その分、他の教科の授業時間が減っているのが気になる。
- ・他の教科を削ってまでやる必要はないと思ふ。



※特別な教育課程についての説明が裏面にあります

## 笠原小学校の『特別な教育課程(教育の内容や方法)』について

### 1 笠原小学校の外国語(英語)科の実施時間数について

- 1・2年生・・・それぞれ年間に35時間実施(生活科の一部をこれに充てています)
  - 3・4年生・・・それぞれ年間に60時間実施(総合的な学習の時間の一部をこれに充てています)
  - 5・6年生・・・それぞれ年間に70時間実施(外国語活動の時間と総合的な学習の時間の一部をこれに充てています)
- ※『総合的な学習の時間』・・・普段子どもたちが「総合」と呼んでいるもので、「教科」ではなく道徳と同じように「領域」です。



### 2 生活科と総合的な学習の時間について

生活科には教科書があり、「具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会及び自然との関わりに関心をもち、自分自身や自分の生活について考えさせるとともに、その過程において生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ、自立への基礎を養うこと」を目標としています。

また、3年生以上が学ぶ総合的な学習の時間は「横断的・総合的な学習や探求的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、共同的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにすること」を目標としています。例えば国際理解、情報、環境、福祉、健康などの横断的・総合的な課題について各学校ごとに指導計画を作成し、内容を定めることになっています。

### 3 笠原小学校の外国語(英語)科の進め方について

笠原小学校が長年研究してきた外国語(英語)科の学習は、「笠原型コンテンツ・ベース」という手法をとっています。その特徴は3つあり、下記の通りです。

- ①問題解決的な活動により、「聞く・話す・読む・書く」必然を生み出すとともに、コミュニケーションへの意欲を高める場面設定
- ②他の教科・領域での児童の意欲・関心が高い学習事項をいかした題材
- ③驚きや発見、気づきの生まれる伝え合うねうちの高い内容



### 4 他の教科の学習内容を削らないための工夫

子どもたちが外国語(英語)科の授業が大好きな理由の一つは、以下の工夫にあります。生活科や総合的な学習の時間の内容は外国語(英語)科の授業の素材として扱えることがたくさんあり、この素材のよさをうまく生かして外国語(英語)科の授業を行っています。そのため、生活科、総合的な学習の時間、外国語(英語)科のどれについても子どもたちの興味・関心を高め、意欲的な姿を生み出すという相乗効果が見られます。そもそも、外国語(英語)科はコミュニケーションを図るための基礎となる資質・能力を育成できる側面があるため、全ての教科の基礎となり、他の教科・領域と関わらせることでより効果的に力を付けることができています。

これこそが15年間の成果であり、他の学校ではまねのできない部分だと思えます。

今回、アンケートを通じてご意見をいただいたことで、これまで、どの授業が外国語(英語)科の授業になっているのだろうか、他の小学校の授業内容とどのように違うのだろうかご心配をかけてきたことが分かりました。説明が遅くなり申し訳ありませんでした。今後も、どの学習についても、授業だけでなく全ての教育活動と互いに関わらせたり繰り返したりしながら力を付けていけるよう、工夫を重ねて参ります。ご理解・ご協力、お願いします。

#### 稼ぐ人の子ども期は

#### 教育推進課

「こういう教育をしたら、こういう人間になる」とは、教育学の興味深いテーマだ。この問題を調べる方法として、成人の調査対象者に子ども期を振り返ってもらい、現在の地位や生活状況との関連を探る「回顧法」がある。例えば、年収の高い人はどういう子ども期を過ごしていたのか。年収の高い人は、子ども時代によく本を読み、家での手伝いもよくしていたことがわかった。また、自然体験や地域行事への参加頻度なども高い。「稼ぐ人」の子ども期は勉強三昧だったかと思いきや、そうではなかった。

「体験が人を育てる」とは、よく言ったものだ。「手伝いなんていいから勉強しなさい」というのは間違いだろう。他者への共感のない勉強(ガリ勉)はエゴの増幅にしかならない。そういう子は高い確率でニートになる。子どもの生活に均衡をもたせたいものである。

(舞田敏彦・社会教育学者 日本教育新聞8.21より)

いつも学校の教育活動に温かいご支援・ご協力をいただき、ありがとうございました。どうぞよい年をお迎えください。新しい年も、どうぞよろしく願いいたします。

